

平成三十一年度
名寄市立大学
一般入試 後期日程

小 論 文 問 題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、センター試験受験票、本学受験票、筆記用具、消しゴム、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、袋・箱から出したティッシュペーパー以外、不要なものは置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は黙って手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

今期の慶應の授業で、非常に説得力あるスピーチをした学生Aくんがいる。

私も感銘を受けたが、聞いている多くの学生も、その意見に打たれた。それは「束縛されていることを認める」という意外な意見だ。

みなさんはどうだろうか？

仕事をやるにしても、サークルの活動をするにしても、なにか人の手助けをするにしても、「それは拘束されて、イヤイヤやらされているのではない、自分が好きでやっている」と思いたいのではないだろうか。

どんなに本意ではないことをやるにしても、人は、「自分が拘束されてやっている」とは思いたくないものだ。自由な意思でやっていると思うから、ツライことでも苦じゃなくなる。と、私もそう思っていた。

ところが、そうばかりではない。いやむしろ、「束縛」という関係性を認めないことが、逆に人を追い詰めることだってある。

Aくんは、おばあさんの介護をしている。

大学との両立はほんとうに頭の下がることだ。Aくんがどんなにおばあさんを愛し、また、つくし、介護生活を辛抱強く続けてきているかは、短いスピーチからも充分、説得力をもって伝わってきた。

それだけ忍耐力のあるAくんでも、介護の生活は、想像を絶するものがある。オムツをかえるにしても、食事をしてもらうにしても、常に常に、相手が機嫌よく、こちらの思うとおりに、協力的に動いてくれるとは限らない。予想を超えた事態もある。

どんなに大切な人でも、どんなに心から好きな人でも、「好き」と思えなくなる瞬間はある。

そういうときに、優しく、誠実な人ほど、介護の対象を愛せない自分、好きで介護をやっていると言えない自分、を許せなくなる。

Aくんにも、介護の厳しい毎日の中で、ふと、大切なおばあさんを「好き」でいられない瞬間はあり、そんなときは、どんなに孝行なAくんでも、いま自分が心から望んで、好きで介護をやっているのだと言い難くなる。Aくんは、そのことに苦しみ追い詰められていった。

意外にも、そんなAくんを救ったのが「束縛」という概念だった。

親の介護をする、とか、親が乳飲み子の世話をする、という場合、「好きでやっている」「当然のこととしてやっている」と言いたいし、みんなもそう期待するし、ほんとにそうなのだろう。

でも常に常にならなければならないとすれば自分を追い詰める。

追い詰められたときAくんは、「いま、自分は束縛されている」と認め、そのことによって救われたそうだ。

つまり、「いま自分は介護に拘束されている」と。

どんなに大切な人と自分の関係にも、「束縛」されたり、「束縛」したり、という部分はある。

愛さなければ、好きでなければ育児はしてはならないと、それが理想だろうけれど、自分がとても大変なときに、ものすごくひどいことをする子どもがいたら、瞬間的に、親とはいえ、好きとは思えない、世話をするのがいやになるということだって、あるのではないか。

そんなときに、「いま自分は束縛されている」「育児に拘束されている」と認めることで、世間はひどいと思うかもしれないが、現実的には、世話を放り出したり、いいかげんにすることなく、まっとうすることができる。

不思議にも「縛られている」と認めることが自分を生かし、関係性を生かし、ひいては相手を生かす結果になる。

仕事は、基本、人を「束縛」するものだ。(中略) 仕事は人を自由にしない。仕事の拘束に耐え、義務を背負い、りっぱにまっとうして成果を出したものにだけ、対価として自由は得られるのだ。仕事は人を自由にはしない。人生を楽しく豊かにする、とはベクトルが別物だと私は思う。仕事は自分に「制約」を課すし、「制限」をかけるし、肉体的にも、時間的にも、知的にも、「拘束」する。

仕事は人を縛る。

自己実現と仕事が混線しがちな若者に、伝えなければいけないことのひとつは、基本、仕事が、厳しく苦しい「拘束」からはじまるということではないか。

自戒をこめて、いま私はそう思う。

(『働きたくない』というあなたへ) 山田ズーニー著 河出書房新社 二〇一六年より)

問 「仕事は人を縛る」ということについて、あなたが考えることを八〇〇字以上千字以内で述べなさい。